

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-69727

(P2010-69727A)

(43) 公開日 平成22年4月2日(2010.4.2)

(51) Int.Cl.

B 4 1 K 1/10 (2006.01)

F I

B 4 1 K 1/10

B 4 1 K 1/10

D

E

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2008-239707 (P2008-239707)
 (22) 出願日 平成20年9月18日 (2008.9.18)

(71) 出願人 390017891
 シヤチハタ株式会社
 愛知県名古屋市西区天塚町4丁目69番地
 (74) 代理人 100078101
 弁理士 綿貫 達雄
 (74) 代理人 100085523
 弁理士 山本 文夫
 (74) 代理人 100154461
 弁理士 関根 由布
 (72) 発明者 尾関 正義
 愛知県名古屋市西区天塚町4丁目69番地
 シヤチハタ株式会社内
 (72) 発明者 木田 昌樹
 東京都世田谷区岡本3丁目18番19号
 (72) 発明者 今泉 元秀
 東京都世田谷区砧1丁目15番7号

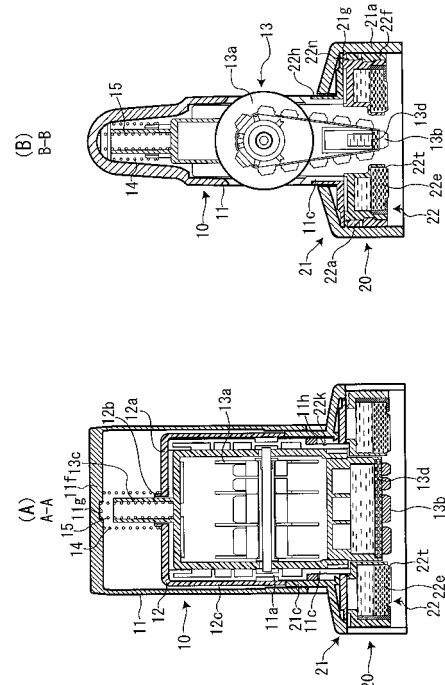
(54) 【発明の名称】 固定印付き回転印

(57) 【要約】

【課題】インキ補充時に、固定印と回転印を分離した場合であっても、固定印の印字面で載置面が汚れない固定印付き回転印を提供する。

【解決手段】回転印本体13と、窓穴22tが形成された固定印盤22eを有する固定印本体22と固定印本体22の外側に昇降動可能に被装した昇降鞘枠21とから構成される固定印20と、回転印本体13をその内部に固装し、固定印本体22をその下部で固着する把持ケース11とを有する固定印付き回転印において、固定印本体22の外側にスプリング保持部22jを凹陷形成し、昇降鞘枠21の内側に保持片21kを形成し、保持片21kとスプリング保持部22jとの間にスプリング部材24を配設し、固定印20を把持ケース11から分離した際に、固定印盤22eの印字面が昇降鞘枠21の先端よりも突出しない状態で固定印本体22が昇降鞘枠21に保持されるように構成する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

回転自在に配設された回転子（１３ａ）とその下端との間に無端印字ベルト（１３ｂ）を巻装した回転印本体（１３）と、

前記無端印字ベルト（１３ｂ）の下端を露出させる窓穴（２２ｔ）が形成された固定印盤（２２ｅ）を保持部材（２２ａ）に嵌め込んだ固定印本体（２２）と、当該固定印本体（２２）の外側に昇降動可能に被装した昇降鞘枠（２１）とから構成される固定印（２０）と、

前記回転印本体（１３）をその内部に固装し、前記固定印本体（２２）をその下部で固着する把持ケース（１１）と、

前記昇降鞘枠（２１）を前記把持ケース（１１）に対して下方に付勢し、前記昇降鞘枠（２１）の下端を、前記固定印盤（２２ｅ）の印字面及び無端印字ベルト（１３ｂ）の下端よりも下側に位置させる付勢機構（１２、１４）を有する固定印付き回転印において、

昇降鞘枠（２１）を固定印本体（２２）に対して下方に付勢する付勢機構を設け、

固定印（２０）を把持ケース（１１）から分離し、前記昇降鞘枠（２１）に作用する付勢力が解除された際に、前記固定印盤（２２ｅ）の印字面が前記昇降鞘枠（２１）の先端よりも突出しない状態で、前記固定印本体（２２）が前記昇降鞘枠（２１）に保持されるように構成したことを特徴とする固定印付き回転印。

【請求項 2】

固定印本体（２２）の内面及び昇降鞘枠（２１）の外面の一方に、スプリング保持部を形成し、

固定印本体（２２）の内面及び昇降鞘枠（２１）の外面の他方に、前記スプリング保持部内に侵入する保持片を形成し、

前記保持片とスプリング保持部との間で昇降鞘枠（２１）を固定印本体（２２）に対して下方に付勢する付勢力を作用させるスプリング部材を、前記スプリング保持部内に配設して付勢機構を構成したことを特徴とする請求項 1 に記載の固定印付き回転印。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、回転印の無端印字ベルトに形成された日付やシリアルナンバー等を切り替えて印字すると同時に、前記回転印の外側に配設された固定印の印影も印字することができる固定印付き回転印に関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、特許文献 1 に示されるような固定印付き回転印が知られている。この固定印付き回転印 100 は、図 7 の（A）～（C）に示されるように、日付やシリアルナンバー等を印字する回転印 100 の無端印字ベルト 110 a を、固定印 120 の中央に形成された窓穴 120 a から露出させたものであり、図 7 の（D）に示されるように、日付等 151 を印字すると同時に、固定印 120 の印字面 120 b に形成された印影 152 も印字することができるという点で便利である。

【0003】

このような、固定印付き回転印 100 は、図 8 に示されるように、把持ケース 111 内に昇降動可能に配設されたスライド部材 112 が、コイルスプリング 113 の付勢力により下方に付勢され、当該スライド部材 112 が固定印 120 の昇降鞘枠 121 を下方に押圧することにより、昇降鞘枠 121 が、把持ケース 111 に対して下方に付勢されるようになっている。一方で、昇降鞘枠 121 内に配設された保持部材 122 は、把持ケース 111 の係合部 111 a に固着している。このため、固定印付き回転印 100 を置いた場合であっても、無端印字ベルト 110 a や印字面 120 b が、載置面と接触することなく、載置面が汚れることがないようになっている。

【0004】

10

20

30

40

50

回転印 1 0 0 や固定印 1 2 0 にインキを補充する際には、固定印 1 2 0 と回転印 1 0 0 を分離する必要がある。しかし、固定印 1 2 0 と回転印 1 0 0 を分離すると、保持部材 1 2 2 の係合部 1 1 1 a への固着が解除されるので、保持部材 1 2 2 が下方に落下し、図 9 に示されるように、固定印 1 2 0 を置いた場合には、固定印 1 2 0 の印字面 1 2 0 b が載置面と接触し、載置面が汚れてしまうという問題があった。

【 0 0 0 5 】

【特許文献 1】実公昭 5 5 - 3 2 7 6 3 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

10

本発明は、上記問題を解決し、固定印を回転印から分離し載置した場合であっても、固定印の印字面で載置面が汚れない固定印付き回転印を提供することを目的になされたものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

上記課題を解決するためになされた請求項 1 に記載の発明は、回転自在に配設された回転子とその下端との間に無端印字ベルトを巻装した回転印本体と、

前記無端印字ベルトの下端を露出させる窓穴が形成された固定印盤を保持部材に嵌め込んだ固定印本体と、当該固定印本体の外側に昇降動可能に被装した昇降鞘枠とから構成される固定印と、

20

前記回転印本体をその内部に固装し、前記固定印本体をその下部で固着する把持ケースと、

前記昇降鞘枠を前記把持ケースに対して下方に付勢し、前記昇降鞘枠の下端を、前記固定印盤の印字面及び無端印字ベルトの下端よりも下側に位置させる付勢機構を有する固定印付き回転印において、

昇降鞘枠を固定印本体に対して下方に付勢する付勢機構を設け、

固定印を把持ケースから分離し、前記昇降鞘枠に作用する付勢力が解除された際に、前記固定印盤の印字面が前記昇降鞘枠の先端よりも突出しない状態で、前記固定印本体が前記昇降鞘枠に保持されるように構成したことを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

30

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の発明において、固定印本体の内面及び昇降鞘枠の外面の一方に、スプリング保持部を形成し、

固定印本体の内面及び昇降鞘枠の外面の他方に、前記スプリング保持部内に侵入する保持片を形成し、

前記保持片とスプリング保持部との間で昇降鞘枠を固定印本体に対して下方に付勢する付勢力を作用させるスプリング部材を、前記スプリング保持部内に配設して付勢機構を構成したことを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 0 9 】

40

請求項 1 に記載の発明は、回転自在に配設された回転子とその下端との間に無端印字ベルトを巻装した回転印本体と、前記無端印字ベルトの下端を露出させる窓穴が形成された固定印盤を保持部材に嵌め込んだ固定印本体と、当該固定印本体の外側に昇降動可能に被装した昇降鞘枠とから構成される固定印と、前記回転印本体をその内部に固装し、前記固定印本体をその下部で固着する把持ケースと、前記昇降鞘枠を前記把持ケースに対して下方に付勢し、前記昇降鞘枠の下端を、前記固定印盤の印字面及び無端印字ベルトの下端よりも下側に位置させる付勢機構を有する固定印付き回転印において、昇降鞘枠を固定印本体に対して下方に付勢する付勢機構を設け、固定印を把持ケースから分離し、前記昇降鞘枠に作用する付勢力が解除された際に、前記固定印盤の印字面が前記昇降鞘枠の先端よりも突出しない状態で、前記固定印本体が前記昇降鞘枠に保持されるように構成したことを特徴とする。

50

このため、固定印を把持ケースから分離した際に、固定印盤が載置面と接触しないので、載置面が汚れることがない。

【 0 0 1 0 】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の発明において、固定印本体の内面及び昇降鞘枠の外面の一方に、スプリング保持部を形成し、

固定印本体の内面及び昇降鞘枠の外面の他方に、前記スプリング保持部内に侵入する保持片を形成し、

前記保持片とスプリング保持部との間で昇降鞘枠を固定印本体に対して下方に付勢する付勢力を作用させるスプリング部材を、前記スプリング保持部内に配設して付勢機構を構成したことを特徴とする。

このため、昇降鞘枠を固定印本体に対して下方に付勢する付勢機構を提供することが可能となった。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 1 】

(固定印付き回転印の構造)

以下に、図面を参照しつつ本発明を説明する。図 1 は固定印付き回転印 1 の説明図である。図 1 (A) は固定印付き回転印 1 の正面図であり、図 1 (B) は固定印付き回転印 1 の側面図である。図 1 (C) は固定印付き回転印 1 の底面図である。図 1 (D) は固定印付き回転印 1 の印影である。図 2 は図 1 の断面図である。図 2 (A) は図 1 (C) A - A 断面図であり、図 2 (B) は図 1 (C) の B - B 断面図である。

【 0 0 1 2 】

固定印付き回転印 1 は、回転印 1 0 と固定印 2 0 とから構成されている。図 3 に回転印 1 0 の説明図を示し、以下、回転印 1 0 について説明をする。図 3 (A) は回転印 1 0 の正面図であり、図 3 (B) は回転印 1 0 の側面図である。図 3 (C) は回転印 1 0 の正断面図であり、図 3 (D) は回転印 1 0 の側断面図である。回転印 1 0 は、把持ケース 1 1、スライド部材 1 2、回転印本体 1 3、コイルスプリング 1 4、コイルスプリング 1 5 とから構成されている。

【 0 0 1 3 】

図 4 に把持ケース 1 1 の説明図を示す。図 4 (A) は把持ケース 1 1 の内面図であり、図 4 (B) は図 4 (A) の A - A 断面図であり、図 4 (C) は図 4 (A) の B - B 断面図である。把持ケース 1 1 は、下側が開口した箱形状をしている。把持ケース 1 1 の内部には、側面 1 1 b と平行に離間したリブ 1 1 a が形成されている。リブ 1 1 a の下方には、下方に延出する係合部 1 1 c が形成されている。係合部 1 1 c の断面は長方形筒状となっている。係合部 1 1 c の側面には、係合部 1 1 h が横方向に凹陷形成されている。

【 0 0 1 4 】

把持ケース 1 1 の正面 1 1 d には、複数の操作窓 1 1 e が並列して上下に連通形成されている。図 3 に示されるように、操作窓 1 1 e からは、後述する回転印本体 1 3 の回転子 1 3 a の外縁が突出するようになっている。把持ケース 1 1 の上面 1 1 f の内側には、スプリング受け 1 1 g が凹陷形成されている。

【 0 0 1 5 】

スライド部材 1 2 は、相対向する側板 1 2 c と、この側板 1 2 c の上端を接続する上板 1 2 a が一体となって形成されたものである。スライド部材 1 2 の上板 1 2 a には、更に上方に突出する扁平筒状のスプリング保持部 1 2 b が形成されている。スライド部材 1 2 は、側板 1 2 c が把持ケース 1 1 の側面 1 1 b とリブ 1 1 a の間に配置された状態で、把持ケース 1 1 の内部に上下にスライド自在に配設されている。

【 0 0 1 6 】

スライド部材 1 2 の上板 1 2 a と把持ケース 1 1 の上面 1 1 f との間には、コイルスプリング 1 4 が取り付けられている。なお、コイルスプリング 1 4 の下端は、スライド部材 1 2 のスプリング保持部 1 2 b の外側で保持されている。コイルスプリング 1 4 の自然長は、スライド部材 1 2 の上板 1 2 a と把持ケース 1 1 の上面 1 1 f 間の寸法よりも長くな

10

20

30

40

50

っている。このため、スライド部材 1 2 が把持ケース 1 1 に対して、下方に付勢されるようになっている。

【0017】

回転印本体 1 3 の中央には、複数の回転子 1 3 a が並列して、回転自在に軸着している。回転子 1 3 a の外縁は、把持ケース 1 1 の操作窓 1 1 e から露出している。回転印本体 1 3 の下端には、第 1 のインキ吸蔵体 1 3 d が配設されている。第 1 のインキ吸蔵体 1 3 d の上部と接して、第 2 のインキ吸蔵体 1 3 e が配設されている。複数の無端印字ベルト 1 3 b が、それぞれ、回転子 1 3 a 及び第 1 のインキ吸蔵体 1 3 d に巻きかけられていて、回転子 1 3 a を回転させると、無端印字ベルト 1 3 b が回転し、無端印字ベルト 1 3 b に形成された印字を変えることができるようになっている。なお、無端印字ベルト 1 3 b には日付やシリアルナンバー等の印字が形成されている。無端印字ベルト 1 3 b は、それ自体インキを吸蔵する構造であり、第 2 のインキ吸蔵体 1 3 e に吸蔵されたインキが、第 1 のインキ吸蔵体 1 3 d を介して、無端印字ベルト 1 3 b に供給されるようになっている。回転印本体 1 3 の下部には、第 2 のインキ吸蔵体 1 3 e に連通するインキ補充穴 1 3 f が形成されている。

10

【0018】

回転印本体 1 3 の上部には、更に上方に突出する筒状のスプリング保持部 1 3 c が形成されている。スプリング保持部 1 3 c は、スライド部材 1 2 のスプリング保持部 1 2 b 内を貫入している。回転印本体 1 3 a は、把持ケース 1 1 のリブ 1 1 a 間に配置された状態で、把持ケース 1 1 内に固装されている。無端印字ベルト 1 3 b の下端は、把持ケース 1 1 の係合部 1 1 c から下方に突出している。

20

【0019】

回転印本体 1 3 のスプリング保持部 1 3 c 内には、コイルスプリング 1 5 が取り付けられている。コイルスプリング 1 5 の上端は、把持ケース 1 1 のスプリング受け 1 1 g で保持されている。コイルスプリング 1 5 の自然長は、回転印本体 1 3 のスプリング保持部 1 3 c の下端と回転印本体 1 3 のスプリング受け 1 1 g 間の寸法よりも長くなっている。

【0020】

図 5 に固定印 2 0 の説明図を示し、図 6 に図 5 の断面図を示して、以下、固定印 2 0 について説明をする。図 5 (A) は固定印 2 0 の正面図であり、図 5 (B) は固定印 2 0 の上面図である、図 5 (C) は固定印 2 0 の側面図である。図 5 (D) は固定印 2 0 の印影面側を示した裏面図である。図 6 (A) は図 5 (B) の A - A 断面図である。図 6 (B) は図 5 の (B) の B - B 断面図である。なお、図 6 (C)、(D) は、それぞれ、図 6 (A)、(B) において、便宜的に固定印本体 2 2 を下側に移動させた図である。固定印 2 0 は、昇降鞘枠 2 1 と固定印本体 2 2 とから構成されている。

30

【0021】

昇降鞘枠 2 1 は、相対向する一对の脚部 2 1 a と、この脚部 2 1 a の上端を接続する天井部 2 1 b と、この天井部 2 1 b から上方に突出する押圧片 2 1 c が一体となって形成されたものである。天井部 2 1 b には、窓穴 2 1 d が連通形成されている。前記押圧片 2 1 c は、窓穴 2 1 d の外縁に、相対向するように形成されている。押圧片 2 1 c の内面 2 1 f の下端には、内側に突出する保持片 2 1 k が形成されている。

40

【0022】

固定印本体 2 2 は、保持部材 2 2 a、保持枠 2 2 b、リテーナー 2 2 c、インキ吸蔵体 2 2 d、固定印盤 2 2 e とから構成されている。

【0023】

保持部材 2 2 a は、相対向する一对の側板部 2 2 f と、この側板部 2 2 f の上端を接続する天井部 2 2 g と、この天井部 2 2 g から上方に突出する係合片 2 2 h が、一体となって形成されたものである。天井部 2 2 g には、挿入穴 2 2 i が連通形成されている。前記係合片 2 2 h は、前記挿入穴 2 2 i の外縁に、相対向するように形成されている。保持部材 2 2 a は、昇降鞘枠 2 1 の内側に昇降自在に配設されている。

【0024】

50

係合片 2 2 h の外面には、スプリング保持部 2 2 j が凹陷又は連通形成されている。図 6 の (A) (B) に示されるように、昇降鞘枠 2 1 の保持片 2 1 k は、保持部材 2 2 a のスプリング保持部 2 2 j の下端内に侵入している。

【 0 0 2 5 】

スプリング保持部 2 2 j 内の保持片 2 1 k 上には、スプリング部材 2 4 が配設されている。図 6 に示される実施形態では、スプリング部材 2 4 は、略 " U " 字形状に曲げられた板バネである。スプリング部材 2 4 の上端は、スプリング保持部 2 2 j の上端と接している。このため、スプリング部材 2 4 は、昇降鞘枠 2 1 を、固定印本体 2 2 に対して、下方に付勢している。なお、スプリング部材 2 4 は、コイルスプリングであっても差し支えない。

10

【 0 0 2 6 】

係合片 2 2 h の内側には、係合突起 2 2 k が形成されている。側板部 2 2 f の内側には、スライド突起 2 2 m が横方向に形成されている。

【 0 0 2 7 】

保持枠 2 2 b は、外側枠 2 2 p と、この外側枠 2 2 p の内側に配設された内側枠 2 2 q と、外側枠 2 2 p 及び内側枠 2 2 q の上端を接続する天板 2 2 r が一体となって形成されている。内側枠 2 2 q の内側は窓穴 2 2 s となっている。外側枠 2 2 p と内側枠 2 2 q の間で、上から順に、中央に窓穴を有するインキ吸蔵体 2 2 d 及び中央に窓穴 2 2 t を有する固定印盤 2 2 e を保持している。固定印盤 2 2 e の窓穴 2 2 t (保持枠 2 2 b の窓穴 2 2 s) から回転印 1 0 の無端印字ベルト 1 3 b の下端が露出するようになっている。保持枠 2 2 b の天板 2 2 r には、インキ補充穴 2 2 u が連通形成されている。

20

【 0 0 2 8 】

保持枠 2 2 b の外側枠 2 2 p の外側には、スライド溝 2 2 v が横方向に沿って形成されている。保持枠 2 2 b のスライド溝 2 2 v と、保持部材 2 2 a のスライド突起 2 2 m が嵌合して、固定印本体 2 2 が保持部材 2 2 a に着脱自在に固着している。

【 0 0 2 9 】

リテーナー 2 2 c は、図 6 の (A) (B) に示されるように断面形状が " L " 字形状の枠状となっている。リテーナー 2 2 c は、固定印盤 2 2 e の外縁を下側から保持し、固定印盤 2 2 e を保持枠 2 2 b の外側枠 2 2 p の内側に固着している。

【 0 0 3 0 】

回転印 1 0 を固定印 2 0 に装着するには、回転印 1 0 の先端を、固定印 2 0 の挿入穴 2 2 i に挿入し、無端印字ベルト 1 3 b を窓穴 2 2 s から露出させる。すると、保持部材 2 2 a の係合突起 2 2 k が、把持ケース 1 1 の係合部 1 1 h と係合し、保持部材 2 2 a が把持ケース 1 1 に固着し、回転印 1 0 の固定印 2 0 への装着が完了する。一方で、回転印 1 0 を上方に引っ張ると、保持部材 2 2 a の係合突起 2 2 k と把持ケース 1 1 の係合部 1 1 h との係合が外れ、回転印 1 0 を固定印 2 0 から取り外すことができる。このように、回転印 1 0 と固定印 2 0 とは着脱自在となっている。

30

【 0 0 3 1 】

回転印 1 0 を固定印 2 0 から取り外した状態では、インキ補充穴 1 3 f が露出している状態なので、回転印 1 0 の第 2 のインキ吸蔵体 1 3 e にインキを補充することができるようになっている。

40

【 0 0 3 2 】

また、回転印 1 0 と固定印 2 0 を分離した状態で、固定印本体 2 2 を手前に引くと、保持枠 2 2 b が保持部材 2 2 a に対してスライドし、保持枠 2 2 b を保持部材 2 2 a から取り外すことができる。保持枠 2 2 b を保持部材 2 2 a から取り外した状態では、保持枠 2 2 b のインキ補充穴 2 2 u が露出しているので、当該インキ補充穴 2 2 u からインキ吸蔵体 2 2 d にインキを補充することができる。保持部材 2 2 a が下方にスライドした状態であっても、保持片 2 1 k がスプリング保持部 2 2 j 内に侵入し係合しているので、固定印本体 2 2 が昇降鞘枠 2 1 から脱落しないようになっている。

【 0 0 3 3 】

50

図 2 に示されるように、回転印 10 が固定印 20 に装着された状態では、昇降鞘枠 21 は、把持ケース 11 に対して、昇降動可能となっている。また、コイルスプリング 14 が、スライド部材 12 を下方に付勢し、スライド部材 12 の側板 12c が、昇降鞘枠 21 の押圧片 21c を下方に押圧して、昇降鞘枠 21 が下方に付勢される。一方で、保持部材 22a は、把持ケース 11 の係合部 11c に固着しているので、固定印本体 22 が下方に落下しないようになっている。無端印字ベルト 13b 及び固定印盤 22e の印面は、昇降鞘枠 21 の脚部 21a の下端よりも上側に位置している。このように、回転印本体 13 及び保持部材 22a が把持ケース 11 に固着し、コイルスプリング 14 とスライド部材 12 から構成される付勢機構が、昇降鞘枠 21 を把持ケース 11 に対して下方に付勢するので、昇降鞘枠 21 の脚部 21a が無端印字ベルト 13b 及び固定印盤 22e の印字面より下側に位置し、無端印字ベルト 13b 及び固定印盤 22e の印字面が載置面に接触することが無く、載置面が汚れることが無い。

10

【0034】

把持ケース 11 を下方に押し込むと、コイルスプリング 14 及びスプリング部材 24 が圧縮されて、昇降鞘枠 21 が、固定印本体 22 に対して、相対的に上方にスライドする。そして、無端印字ベルト 13b 及び固定印盤 22e の印面が、紙面に達すると、無端印字ベルト 13b 及び固定印盤 22e に形成された印影が印字される（図 6 の（D）～（F）の状態）。

【0035】

印字した後に、把持ケース 11 から手を離すと、コイルスプリング 14 及びスプリング部材 24 の付勢力により、昇降鞘枠 21 が下方に付勢され、相対的に、保持部材 22a が上方にスライドする。

20

【0036】

本発明の固定印付き回転印 1 で押印する場合には、昇降鞘枠 21 の脚部 21a の下端が、常時、紙面に押し付けられているので、固定印付き回転印 1 が紙面に対してずれることがなく、印影がずれることが無い。

【0037】

（本発明の作用）

次に、本発明の作用について説明をする。回転印 10 及び固定印 20 にインキを補充する場合には、回転印 10 を固定印 20 から取り外す必要がある。本発明では、昇降鞘枠 21 を固定印本体 22 に対して下方に付勢するスプリング部材 24 を設けたので、固定印 20 を回転印 10 から取り外して昇降鞘枠 21 に作用する付勢力が解除された状態で、固定印 20 を載置した場合であっても、固定印盤 22e の印字面が昇降鞘枠 21 の脚部 21a の先端よりも突出しない状態で、固定印本体 22 が昇降鞘枠 21 に保持され、固定印盤 22e が載置面に接触することがなく、載置面が汚れることがない。

30

【0038】

以上の説明では、固定印本体 22 側に、スプリング保持部 22j を形成し、昇降鞘枠 21 側に、スプリング保持部 22j 内に侵入する保持片 21k を形成し、スプリング保持部 22j 内に、保持片 21k とスプリング保持部 22j の上端との間で付勢力を作用させるスプリング部材 24 を配設した実施形態について本発明を説明したが、本発明の固定印付き回転印 1 は、この実施形態に限定されず、昇降鞘枠 21 側にスプリング保持部を形成し、固定印本体 22 側に、前記スプリング保持部の上端に侵入する保持片を形成し、スプリング保持部 22j 内に、保持片 21k とスプリング保持部 22j の下端との間で付勢力を作用させるスプリング部材を配設し、昇降鞘枠 21 を固定印本体 22 に対して下方に付勢させる実施形態であっても差し支えない。

40

【0039】

以上、保持枠 22b を保持部材 22a 内に着脱自在に配設した実施形態について本発明を説明したが、保持枠 22b と保持部材 22a とを一体構造とした固定印付き回転印についても本発明を適用することができることは言うまでもない。

【0040】

50

以上、現時点において、もっとも、実践的であり、かつ好ましいと思われる実施形態に関連して本発明を説明したが、本発明は、本願明細書中に開示された実施形態に限定されるものではなく、請求の範囲および明細書全体から読み取れる発明の要旨あるいは思想に反しない範囲で適宜変更可能であり、そのような変更を伴う固定印付き回転印もまた技術的範囲に包含されるものとして理解されなければならない。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 1 】

【図 1】本発明の実施の形態を示す固定印付き回転印の説明図である。

【図 2】図 1 の断面図である。

【図 3】回転印の説明図である。

10

【図 4】把持ケースの説明図である。

【図 5】固定印の説明図である。

【図 6】図 5 の断面図である。

【図 7】従来の固定印付き回転印の説明図である。

【図 8】従来の固定印付き回転印の断面図である。

【図 9】従来の固定印付き回転印の断面図である。

【符号の説明】

【 0 0 4 2 】

1 固定印付き回転印

1 0 回転印

20

1 1 把持ケース

1 1 a リブ

1 1 b 側面

1 1 c 係合部

1 1 d 正面

1 1 e 操作窓

1 1 f 上面

1 1 g スプリング受け

1 1 h 係合部

1 2 スライド部材

30

1 2 a 上板

1 2 b スプリング保持部

1 2 c 側板

1 3 回転印本体

1 3 a 回転子

1 3 b 無端印字ベルト

1 3 c スプリング保持部

1 3 d 第 1 のインキ吸蔵体

1 3 e 第 2 のインキ吸蔵体

1 3 f インキ補充穴

40

1 4 コイルスプリング

1 5 コイルスプリング

2 0 固定印

2 1 昇降鞘枠

2 1 a 脚部

2 1 b 天井部

2 1 c 押圧片

2 1 d 窓穴

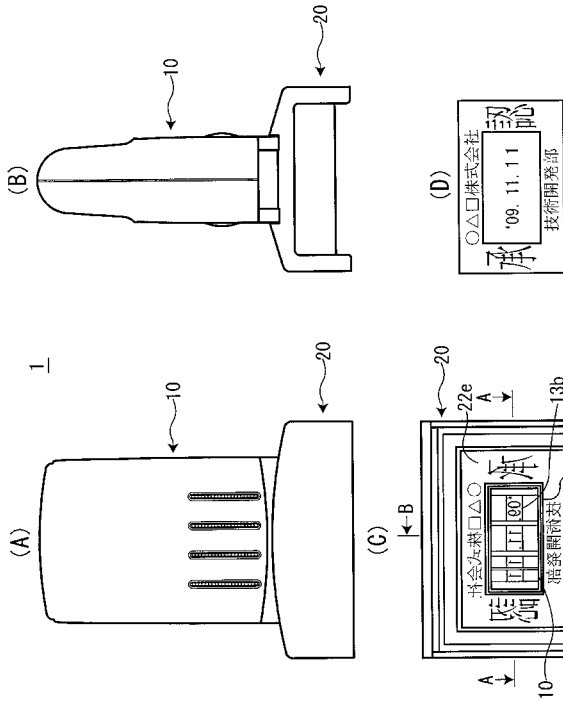
2 1 f 押圧片の内面

2 1 k 保持片

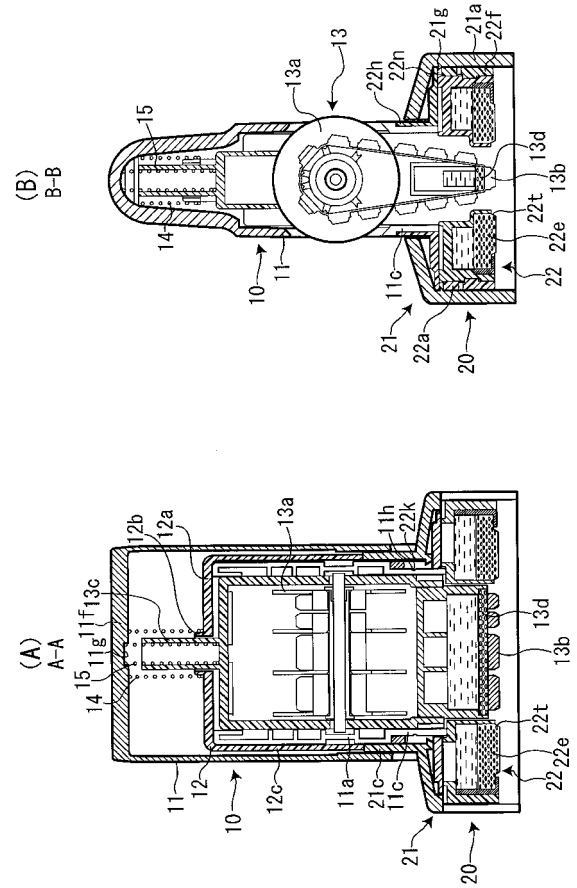
50

2 2	固定印本体	
2 2 a	保持部材	
2 2 b	保持枠	
2 2 c	リテーナー	
2 2 d	インキ吸蔵体	
2 2 e	固定印盤	
2 2 f	側板部	
2 2 g	天井部	
2 2 h	係合片	
2 2 i	挿入穴	10
2 2 j	スプリング保持部	
2 2 k	係合突起	
2 2 m	スライド突起	
2 2 p	外側枠	
2 2 q	内側枠	
2 2 r	天板	
2 2 s	窓穴	
2 2 t	窓穴	
2 2 u	インキ補充穴	
2 2 v	スライド溝	20
2 4	スプリング部材	
1 0 0	固定印付き回転印	
1 1 0	回転印	
1 1 0 a	無端印字ベルト	
1 1 1	把持ケース	
1 1 1 a	係合部	
1 1 2	スライド部材	
1 1 3	コイルスプリング	
1 1 0 a	印字部	
1 2 0	固定印	30
1 2 0 a	窓穴	
1 2 0 b	印字面	
1 2 1	固定印筐体	
1 2 2	保持部材	
1 5 1	日付	
1 5 2	印字	

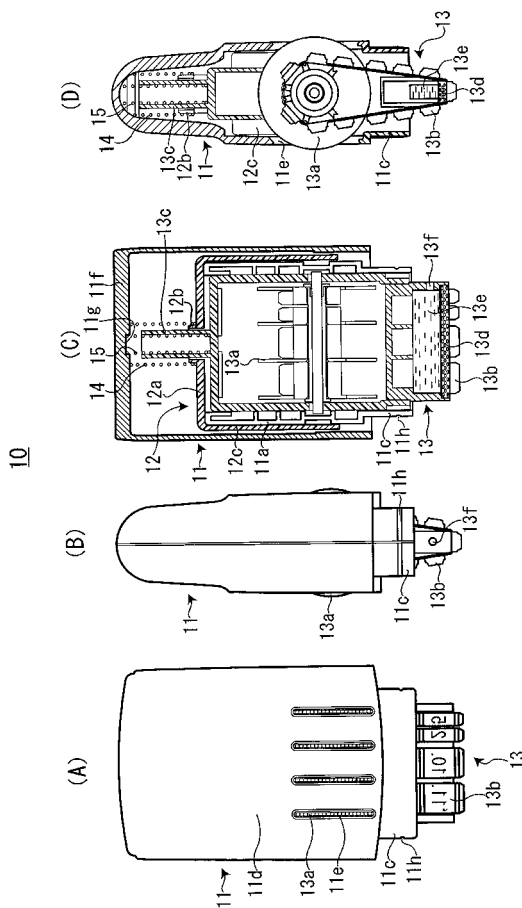
【図 1】



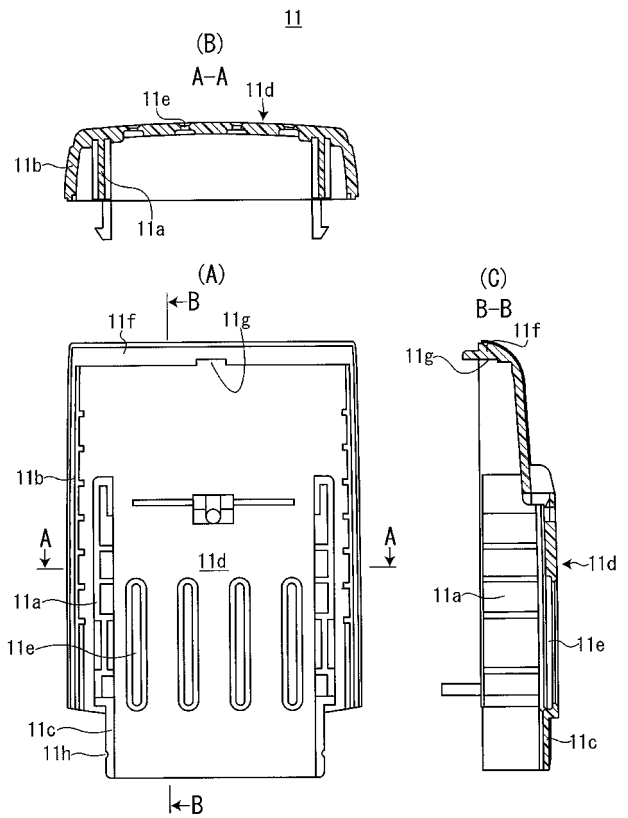
【図 2】



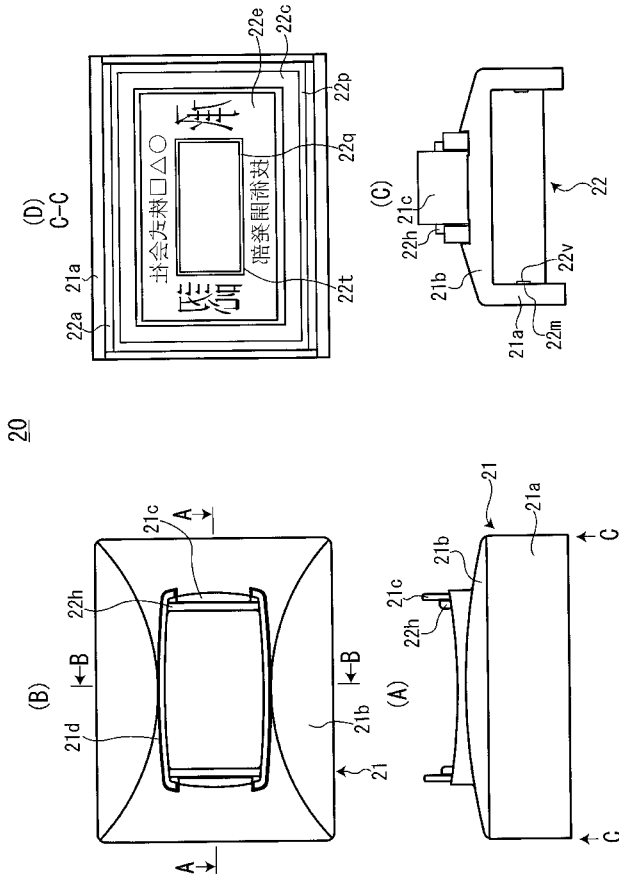
【図 3】



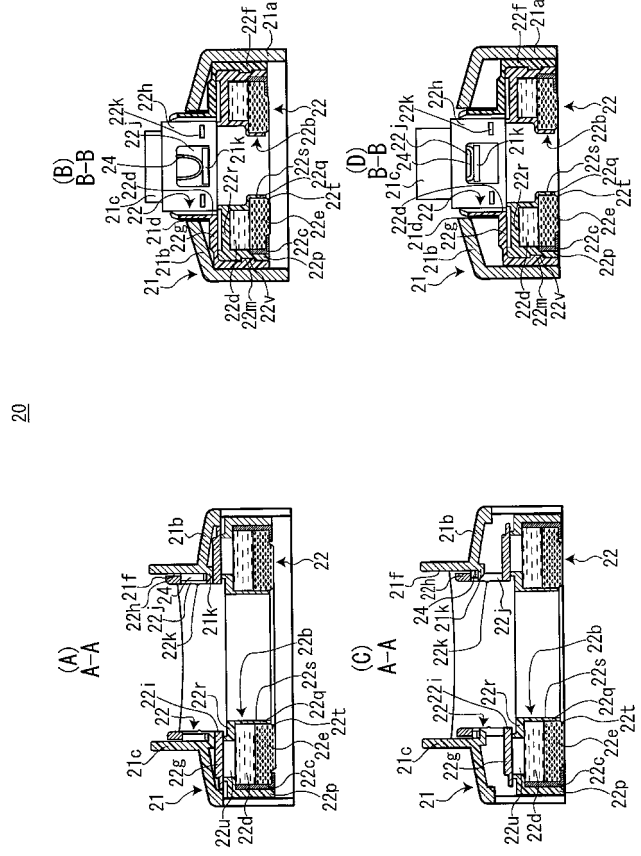
【図 4】



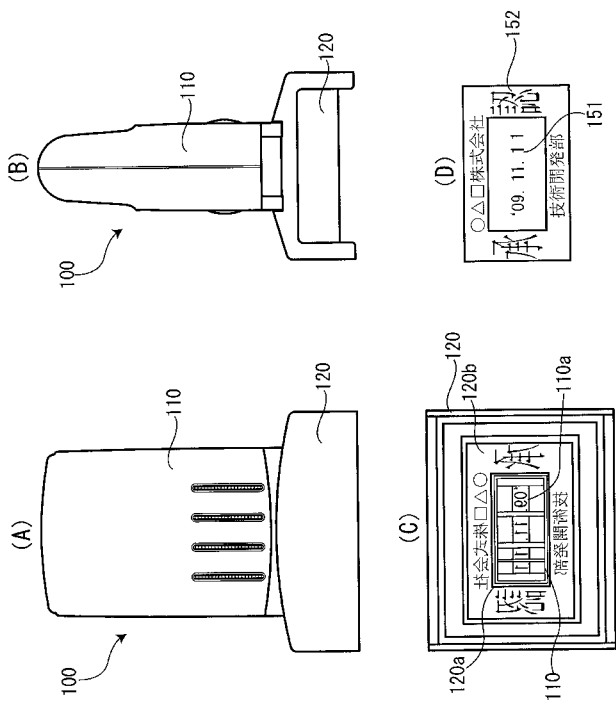
【図 5】



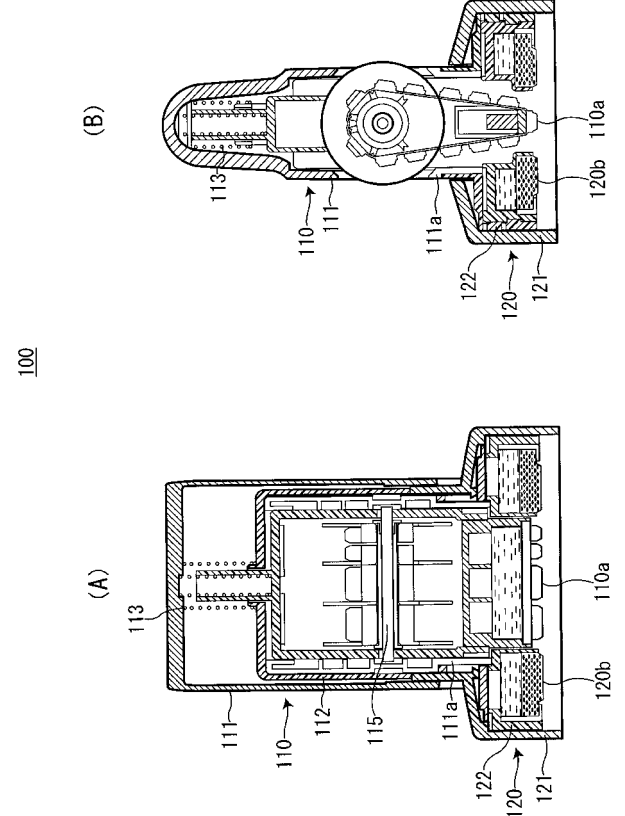
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【 図 9 】

120